

琉球新報

ラトビア外相が本場で空手修行 キャリア 10年

掲載日時 2006-2-24 16:15:00 | トピック：社会

ラトビアのアルティス・パブリクス外務大臣（39）が23日来県し、那覇市内の空手道場でけいこに汗を流した。大臣は空手を始めて10年ほどになると言い「強い人たちと一緒に練習できる環境が素晴らしい」と空手の本場の雰囲気を楽しんだ。

大臣が訪れたのは、那覇市三原の神人武館（翁長良光館長）。大臣が米国在住時に、翁長館長の弟子と出会ったことがきっかけで空手を始めた。昨年は、翁長館長らをラトビアに招待し、直接指導も受けたという。

この日は道場で翁長館長や弟子から、動作を一つ一つ真剣な表情で学んでいた。翁長館長が「自分は弱い、目の前にいる人は強い。勝たなくても負けないための方法が手（てい）（秘技）である」と空手の哲学を諭すと、大臣は「この精神を沖縄だけにとどめず、世界に広げていかなければと思う」と空手の魅力に引き込まれている様子だった。



空手のけいこに熱むラトビアのアルティス・パブリクス外務大臣＝23日、那覇市三原の神人武館

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-11436-storytopic-1.html>